

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2003 年 7 月 7 日 (月) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,3,4,5,6,7,8,9 組対象

Produced by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年、組、名前を記入する。
 - 学年、組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 5) に答えよ。(配点 10)

キリスト教は、はじめローマ帝国の迫害の対象となったが、皇帝コンスタンティヌスは 313 年、ついにキリスト教を公認し、4 世紀末には、逆に国教の地位を占めることになった。この間、教父とよばれる人たちが神学(キリスト教の教義に関する学問)を確立することに貢献した。中でも北アフリカ出身の (a)アウグスティヌスは最大の教父とみなされている。彼は信仰の内容をギリシア哲学の考え方をうけていいあらわし、ギリシヤ的な真理への愛は、キリスト教の教える神に出会うことではじめて満たされると説いた。こうして異教の哲学であるギリシヤ哲学は、キリスト教神学のうちにとり入れられた。そして知恵、勇気、節制、正義のギリシヤの四元徳のうえに、パウロの説く [A] のキリスト教の三元徳がおかれた。

この、アウグスティヌスにみられるキリスト教信仰とギリシヤ哲学の総合という方法は、信仰と理性の調和という思想とともに、中世の神学をささえた (b)スコラ哲学に引きつがれた。

中世の神学は、教会や修道院に付属する学校(スコラ)で研究され教えられたので、このようによばれる。スコラ哲学の代表的人物として (c)トマス・アキナスがいる。

問 1 文中の空欄 [A] に入る徳の組み合わせとして適当なものを、次の ~ の中から選べ。[1]

信仰 平等 愛

信仰 平等 自由

信仰 希望 愛

信仰 希望 自由

問 2 文中の下線部(a)に関連して、アウグスティヌスの思想についての説明として間違っているものを、次の ~ の中から選べ。[2]

「神の国」は地上に存在せず、悪のはびこる「地上の国」が滅んだ後に、キリストによって天に創られるものである。

人間が罪から救われるのは、人間の自由意志にもとづく善行によってはなく、キリストを通してあたえられる神の恩寵によってである。

地上に存在する数々の「悪」は神が創造したものではなく、「善」が欠如した状態のことである。

一なる神は三つの位格を持ち、「父」なる神と「子」なるイエスから、神の内における愛である「聖霊」が永遠に発出し続ける。

問3 文中の下線部(a)に関連して、アウグスティヌスの思想形成に影響を与え、その教父哲学に取り入れられた思想を説明するものとして最も適当なものを、次の～の中から選べ。[3]

教会制度の中の聖職者に特別な権能や権威はみとめられず、すべての人は、自己の内心の信仰を通じて直接神に近づくことができる。

悪の支配する地上世界の身体の中に閉じ込められている人間も、自己本来の姿についての知識が与えられるなら、覚醒し再び神となることができる。

子なるキリストが生まれた者ならばイエスは創造された者であり、父なる神と子なるキリストが同質ではありえず、異質的である。

事物は「一者」を根源として、そこから流出によって派生的に生成したのであり、人間は実在界と感覚世界との中間に位置する。

問4 文中の下線部(b)に関連して、スコラ哲学最大の論争といわれる普遍論争に関する説明として適当でないものを、次の～の中から選べ。[4]

普遍は自然的実在であるとする説を実念論という。

普遍は「名称」にすぎず、実在するのは個物だけであるとする説を唯名論という。

アンセルムスは実念論をとらえた。

トマス・アキナスは唯名論をとらえた。

問5 文中の下線部(c)のトマス・アキナスに関する記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[5](1993 センター本試験一部改題)

もとはキリスト教の迫害者であったが、回心して、熱心な伝道活動により、キリスト教を当時の地中海世界に広めた。

キリスト教にアリストテレス哲学を取り入れ、恩寵と自然、信仰と理性とを区別しながら、両者を調和させ、教義を体系化した。

意志の理性に対する優位を説き、理性による信仰の基礎づけを拒否して、哲学と神学とを分離する端緒を開いた。

プラトン哲学を学んだ後、キリスト教徒となったが、信仰の哲学的基礎づけを拒否し、「不条理であるがゆえに私は信じる」という言葉で知られる。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～20)に答えよ。(配点44)

インダス文明の終末とほぼ同じころ、[A]人が西北インドに進入し、この文明の遺跡の近く、パンジャーブ(五河)地方に定着して、最古の聖典『[B]』を編纂した。その後、前500年ころまでに主要なヴェーダ聖典が編纂され、いわゆるバラモン教の根本聖典が整備された。この宗教は多神教であり、主として火神アグニなどの自然神や、武勇神インドラ(帝釈天)、司法神バルナ(水天)のような擬人化された神などが崇拜されている。しかし多神教の世界に満足しえなくなった人々は、やがて、多数の神々は唯一の神がさまざまな形をとって現れたものであり、その唯一の神の異なった名称にすぎないという思想を生み、さらに神々をも超越した唯一の最高神あるいは根本原理の追究に向かった。それは、後世インド思想の主流をなす一神教的あるいは一元論的思想の萌芽となった。

(a)『ウパニシャッド』では、祭式や最高神への関心は薄れ、知識が重視され、宇宙の根本原因として非人格的な一元的原理を追究するに至る。ウパニシャッドの哲人は、(b)梵我一如という説をとらえ、後代のインド哲学の主要な性格を決定する業と輪廻の思想についても明確化した。

前500年ころ、社会的大変動を背景に、反バラモン教的な自由思想家(沙門)が輩出したが、なかでも[C]はジャイナ教を、ゴータマ・ブッダ(仏陀)は仏教を創始した。ジャイナ教は(c)四姓制度を認めず、不殺生を極端に強調し、苦行主義をとり、業を滅して解脱を求めるべきことを主張した。

仏教は形而上学的諸問題に関しては益なきこととして判断を中止し、(d)形而上学的実体であるアートマンを想定せず、(e)いっさいは苦であると認識して、その原因を妄執(渴愛)あるいは[D]にみいだし、それを断じて涅槃を実現すべきであるとして、(f)四諦・縁起説などの教えを説き、八正道すなわち[E]の実践を勧めた。

前4世紀マウリヤ王朝が全インドを統一、[F]王は武力による征服を放棄し、法(ダルマ)による征服を政治理想とした。彼の支持のもとに仏教はインド全域に広がり、さらに南方アジア諸国に伝播したが、おそらく彼の時代に(g)二派に分かれ、その後さらに分裂を重ねた。

問1 文中の空欄[A]に入る語として最も適当なものを、次の～の中から一つ選べ。[6]

ドラヴィダ ドーリア アーリヤ インド

問2 文中の空欄[B]に入る語として適当なものを、次の～の中から選べ。[7]

リグ・ヴェーダ マヌ法典 ダンマパダ アヴェスター

問3 文中の下線部(a)の『ウパニシャッド』は日本語でどのような意味をもつか、適当なものを次の ~ の中から一つ選べ。[8]

賛 歌 哲 学 奥義書 法 典

問4 文中の下線部(b)の梵我一如説について、その説明として間違っているものを、次の ~ の中から一つ選べ。[9]

ブラフマン（梵）とは万物に偏在する、宇宙最高の原理のことである。

アートマン（我）とは個人の本質であり、輪廻の主体である。

梵と我が同一であることを悟ることにより、永遠に輪廻を繰り返すことができる。

輪廻の原動力はカルマン（業）だが、梵我一如の真理により解脱が可能になる。

問5 文中の空欄 [C] に入る人名として適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[10]

ウパーリ アーナンダ アングリマーラ ヴァルダマーナ

問6 文中の下線部(c)の四姓制度に関連して、インドの身分制度の説明として適当でないものを、次の ~ の中から選べ。[11]

ヴァルナとはバラモン、クシャトリア、バイシャ、シュードラの4つの階級をあらわし、最下層の身分のシュードラは、他の身分の者が触れてはならない人間として社会生活のすべての面で差別されてきた。

ヴェーダの人類起源神話によれば、神々がプルシャ(原人)の体を切り分けたとき、その口からバラモン、両腕からクシャトリア、両腿からバイシャ、両足からシュードラが生み出されたといわれている。

カーストとはポルトガル語で「家柄」「血統」を意味するカスタに由来する語であり、またジャーティとは地域社会の日常生活において独自の機能を果たしている、細分化された職能集団をあらわしている。

カーストの職業はバラモンを最高位とする浄・不浄の観点から評価されるが、人がそれぞれの身分のなかに生まれることになったのは、前世の行為の結果であるから、そのカーストの職業に専念せねばならないと考えられている。

問7 文中の下線部(d)に関連して、それをあらわすゴータマ・ブッダの教説として最も適当なものを、次の ~ の中から選べ。[12]

一切皆苦 諸法無我 涅槃寂靜 諸行無常

問8 文中の下線部(e)に関連して、苦悩のおこる原因についての仏教の考え方の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[13](1999 センター本試験)

苦の原因は、自分でないものを自分と思うところにあるが、自分といわれるものは、自他の区別を可能にする原因や条件の背後にある根元的なものであると認識されなければならない。

苦の原因は、自分でないものを自分と思うところにあるが、我々の本質をなす自分といわれるものは、存在するともしないとも言えない不可知的なものであると認識されなければならない。

苦の原因は、自分が何であるか知らないという点にあるが、すべて存在するものは原因や条件に依存する相対的なものであり、自分といわれるものも変化する相対的なものであると認識されなければならない。

苦の原因は、自分が何であるか知らないという点にあるが、自分といわれるものの本質は、この世界のものを存在させる原因や条件の相対的あり方を超越したものであると認識されなければならない。

問9 文中の下線部(f)のゴータマ・ブッダが説いた「四諦」(四聖諦)のそれぞれについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[14](2003 センター本試験)

「苦諦」とは、苦を引き起こす原因として、無知、欲望、執着といったもろもろの心の煩悩があるという真理である。

「集諦」とは、理想の境地に至るためには、八正道の正しい修行法に集中すべきであるという真理である。

「滅諦」とは、煩悩を完全に滅することで、もはや苦が起きることのない平安の境地に達するという真理である。

「道諦」とは、あらゆる事物が存在し変化していくには、必ず依拠すべき道理があるという真理である。

問10 文中の空欄 [D] に入る苦しみの根本原因として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[15]

縁 起 感 情 因 縁 無 明

問11 文中の空欄 [E] に入る語として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[16]

慈 悲 苦 行 中 道 布 施

問12 文中の空欄 [F] に入る人名として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

チャンドラグプタ アショーカ カニシカ ビンピサーラ

問13 文中の下線部(g)に関連して、インドの仏教教団は上座部と大衆部に分裂した。その中で、上座部仏教に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18](2002 センター本試験)

アーリア人上層階層出身者の部派であったため、保守的で、外国人への布教を好まず、インド国内にのみ伝播した。

ブッダを理想化した大乘経典を用いて俗人への布教を重視し、中央アジアを経て、中国、朝鮮、さらに日本に伝播した。

ブッダが制定したとされる戒律を忠実に守り、スリランカでは国家の保護を受け、さらに東南アジアに伝わった。

中観や唯識の大乘仏教教理を完成し、チベットに伝播して国家の保護を受け、さらにモンゴルに伝わった。

問14 部派仏教とのかかわりが深いアビダルマの説明として、最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[19]

部派仏教がつくりあげた、釈尊の説いた教えに関する詳細な研究

部派仏教の出家修行者が守らなければならない、釈尊の説いた戒律

部派仏教が口伝してきた、釈尊の説いた教えの集大成

部派仏教の出家修行者たちが構成する、釈尊の頃から続く教団組織

問15 ゴータマ・シッダルタの生涯のエピソードとして伝えられ、信じられているものとして、間違っているものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[20]

カピラバストゥを支配していたシャーキャ族の王シュッドーダナとその妃マヤーの子としてルンビニー園で生まれた。誕生後すぐに歩き、「天上天下唯我独尊」と語ったという。

生後7日に母と死に別れ、生活は恵まれていたものの内向しがちだった彼は、16歳で結婚し、のち男子をもうける。城の東・南・西・北の門から外出しようとして老人、病人、死人、出家者に遭遇し、人生の根源に潜む苦の問題に思いを深め、29歳で出家する。

出家し苦行に励んだが得るところなく、菩提樹の下に座って、ひたすら思索にふけり、ついに悟りを得て仏陀となった。最初の説法はブッダガヤでかつての苦行仲間に対して行われた。

80歳のとき故国へ向かう旅立ちの途中、食中毒をおこして、クシナーラで2本のサーラの木の間に横たわって生涯を閉じた。遺体は荼毘に付され、遺骨は8つに分骨されてストゥーパ(仏舎利塔)にまつられた。

問16 大乘仏教についての説明の中で、間違っているものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[21]

阿羅漢の道を自利行として批判し、また慈悲の精神に立脚して自己の解脱よりも衆生の救済を優先する利他行の実践をおこなう修行者を、出家・在家の別なく菩薩とよんだ。

歴史的人物としての釈尊は、宇宙の真理としての仏陀（法身）が衆生救済のためにあらわれたものなので、後世に書かれた大乘経典も法身仏の語る仏説に他ならない。

菩薩修行をできない凡夫には仏・菩薩への帰依を勧め、そこから阿弥陀仏、薬師如来などを崇拜し、弥勒菩薩、観音菩薩への助力を求める信仰が高まった。

原始仏教は戒律をめぐる保守的な上座部と革新的な大衆部に分裂し、後に大衆部仏教はみずから多くの衆生を救済できる大乘仏教と称して、上座部を小乗と貶めた。

問17 六波羅蜜の説明として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[22]

六波羅蜜は阿羅漢修行者が完成させなければならない6つの実践徳目である。

六波羅蜜は布施、持戒、忍辱、精進、禅定、慈悲の6つの徳目である。

六波羅蜜の中の布施の重要性を、『般若経典』が強調している。

六波羅蜜は自分の修行だけではなく、衆生の救済も重要であることを含む。

問18 ナーガールジュナ（竜樹）の思想[23]と、ヴァスバンドゥ（世親）の思想[24]と、如来蔵説[25]の説明として、最も適当なものを次の ~ の中から一つずつ選べ。

釈迦の一生において入滅を迎える最後に説かれた法華経こそ尊重すべきである。

阿弥陀如来に念ずれば、極楽浄土に往生することができる。

この世界を構成する法は過去・未来・現在の三世に自己同一性を保っている。

命あるすべてのものは、ことごとく仏となる可能性を有する。

身・口・意の三密という神秘的な行によって、修行者は即身成仏できる。

すべての事物は、認識する心の働きの所産にすぎず、実在しない。

事物の存在の実相は空であり、それは対立の一方に執着しないから中道である。

自己の内なる仏性を確信して、ひたすら坐禅に徹することが重要である。

問19 原始仏典の中のブッダの言葉として、最も適当なものを次の ~ の中から一つ選べ。[26]

まだ生についてわからないのに、どうして死のことがわかるうか

犀（さい）の角のようにただ独り歩め

狭い門から入りなさい

仏道をならうということは、自己をならうことである

問20 次の仏教伝説は、ゴータマ・ブッダが難しい教理を用いずに俗人を教え導いた姿を伝えている。この伝説を読み、ブッダが母親に与えた指示の意図として最も適当なものを、下の ~ の中から一つ選べ。[27](2002 センター追試験)

ある貧しい家の娘が嫁ぎ先で子供を産んだ。子供は走り回って遊ぶまでに成長したのに突然死んでしまった。愛児の死に気が動転した母親は、亡骸を抱いたまま、子供を生き返らせる薬を求めてさまよい歩いた。人々は「死んだ子に飲ませる薬があるものか」と言って彼女をあざけた。

ある男がこの様子を見て、ブッダなら彼女を正気に戻すことができると思い、彼女にブッダのところへ行って薬をもらうように勧めた。彼女がブッダのもとにやってくるまで薬を求めると、ブッダは、「町に行き家ごとに訪ね歩き、まだ一度も死人を出したことがない家から、芥子粒(けしつぶ)をもらってきなさい」と指示した。

いくら家々をまわって探しても指示された芥子粒は手に入らないことを体験させ、家族の死で悲しみ苦しむのは自分ばかりでないことに気づかせ、人は死を免れ得ないことを理解させるため。

いくら家々をまわって探しても指示された芥子粒は手に入らないことを体験させ、子供を生き返らせる薬が手に入らないのは、母親自身が前世で犯した悪い行いの報いであると諦めさせるため。

苦勞を重ねて最後には指示されたとおりの芥子粒を手に入れることによって、その芥子粒を用いた供養をして、幼くして亡くなった子供が来世では幸福に暮らせるように祈願させるため。

苦勞を重ねて最後には指示されたとおりの芥子粒を手に入れることによって、困難にめげずにブッダの教えに従い努力を重ね続ければ、人はやがて必ず報われることを信じさせるため。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～21)に答えよ。(配点46)

紀元前14世紀頃、中国民族は神権国家を組織し、殷王朝を成立させた。前11世紀には、周の武王が殷を滅ぼし周王朝を樹立した。周王朝では、[A]の思想が根底にあり、筮竹などを使った易などによって天の意志を知り、天意にかなった有徳の政治を行うことが、天子の役割とされていた。また、家族制度を基礎にした祖先崇拜と、祭祀を中心とする [B]が身分関係の作法や冠婚葬祭の作法と結びつき、政治や文化の核心となった。

春秋時代の末期にいたり、周王朝の封建制度が崩壊し始めると、諸侯は動乱の世を生きぬくつよい国をつくるために、ひろく思想家や政治家を世にもとめた。これに呼応してあらわれた (a)陰陽家、(b)墨家、(c)兵家、(d)法家、(e)道家 などさまざまな思想家たちを総称して諸子百家という。中でも、後世に最も大きな影響力を与えたものが、(f)孔子を祖とする儒家の思想であった。孔子は、乱世に心を痛めながら、道徳にもとづいた政治を実現したいと考え (g)徳治主義をその理想とした。一人ひとりがみずから道徳的自覚をもち、それを実践することによって家庭が平和に安定し、国が治まり、天下を平らかにすることができる考えたのである。

(h)孟子は、孔子の仁の教えを継承して、真に民衆の幸福をはかるという [C]の政治を主張した。これは、力によって民衆を支配する政治に対するものである。春秋時代から漢代のはじめにかけて儒教の多くの経書が成立した。その後の儒家の思想は、これらの経書を体系的にどのように理解するかによってさまざまに発展した。漢代以降の儒家の思想をそれ以前と区別して儒学というが、その代表的なものは宋代の (i)朱子(朱熹)の朱子学と明代の (j)王陽明の陽明学である。

問1 文中の空欄 [A]に入る言葉として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[28]

預言 崇祖 敬天 占星術

問2 文中の空欄 [B]に入る言葉として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[29]

気 書 道 礼

問3 文中の下線部(a)に関して、陰陽家の思想家として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[30]

蘇秦 許行 鄒衍 清明

問4 文中の下線部(b)に関して、『墨子』の思想として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[31]

戦争こそが最大の不義であるとして、すべての戦闘を否定する非攻説。

近親者重視の別愛ではなく、あらゆる人を平等で無差別に愛する兼愛説。

人材登用における身分差別を撤廃し、有能な人物を登用する尚賢説。

礼楽を人民の生活にとって無益な出費とし、費用節約をすすめる節葬・非楽説。

問5 次の『論語』と『墨子』からの引用文に書かれている、儒家と墨家の「義」・「利」の考え方の違いについての説明として、最も適切なものを下の ~ のうちから一つ選べ。[32]

君子は義に喩(さと)り、小人は利に喩る。[君子は正義に明るく、小人は利益に明るい]
(『論語』里仁篇)

「義政」とはどうあるべきか。大国は小国を攻めない、大氏族は小氏族を略奪しない、強者は弱者を脅さない、貴族は賤民を蔑視しない、ずるがしこいものは愚者を欺かない
このようであれば、必ず天を利し、鬼神*を利し、人を利することができる。三者ともに不利なところはないから、そこで天下に名声が広まり、聖王と仰がれるのである。
(『墨子』天子篇)

*鬼神：天地万物の靈魂。

儒家は利を個人的な利益としてとらえているが、墨家は集団を利用することとしてとらえている。

儒家は利を利己的なものとしてとらえているが、墨家は天上天下全体の利としてとらえている。

儒家は義を徳目としてとらえているが、墨家は義を偽善的なものとしてとらえている。

儒家は義を身分の高いものの徳としてとらえているが、墨家は弱者の徳としてとらえている。

問6 下線部(c)の兵家に関連して、『孫子』の中の言葉として適切なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[33]

学びて時にこれを習う、亦(ま)た説(よろこ)ばしからずや

彼を知り己を知らば百戦あやうからず

白馬は馬にあらず

その家を斉(ととの)えんと欲する者は、先ずその身を修む

問7 文中の下線部(d)の法家に関して、次の文章を読み、法家の思想家韓非子の、孝についての見方の記述として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[34]
(2002 センター追試験)

魯の人が君主にしたがって戦場におもむき、三度の合戦で三度とも逃亡した。孔子がそのわけをたずねた。すると、「わたしには年老いた父親がおります。私が死ねば、だれも養ってくれるものはございません」とこたえた。孔子は、孝行者だと思い、上位に取り立てた。こうしたことからみると、父親にとっての孝子というものは、君主には逆臣なのである。(『韓非子』)

孝は国家秩序と衝突するものであるから、為政者が孝を尊重するのは国家の混乱を招くだけである。

孝は国家秩序を超越した徳であるから、為政者は国家の利益にとらわれずに、人民に孝を奨励すべきである。

孝は国家秩序の基盤となる徳であるから、為政者が人民に孝を奨励すれば、君主への忠も同時に促されることになる。

孝は国家秩序と衝突しないので、為政者が社会の秩序を維持するためには、何ら孝をめぐる政策を立てる必要はない。

問8 下線部(e)の道家に関して、老子の無為自然の思想の説明として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[35]

不平等で非人間的な社会を改革し、人間の本来性を回復する生き方。

なにごとにも道を重んじ、人倫の道に外れないような生き方。

なにごとにも作為を勞せず、ありのままの姿を受け入れる生き方。

自然の中に宿る神性に畏れをいだき、現世利益を神々に願う生き方。

問9 『老子』(『老子道德経』)の中の言葉でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[36]

人は地に^{のつと}法り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然に法る。

大道廢れて仁義あり。智慧出でて大偽あり。

上善は水の如し。水は善く万物を利して争わず。

君君たり、臣臣たり、父父たり、子子たり。

問10 同じく道家の思想家、荘子の万物斉同説の説明として、最も適当なものを、次の
～ のうちから一つ選べ。[37]

この世界のすべては常に変化し定まらず、それを固定的な実体であるにとらえてはならないという考え。

絶対的な無の立場から見れば、上下左右などの空間的位置の相違や、善悪美醜などの価値の対立はいっさい消失するという考え。

階層的秩序の中であって、下のものは上のものの反映あるいは流出であり、下のものは上のものの本性をもち、それを通じて上のものと交流することができるという考え。

身体も心もいっさいのとらわれから離れて、人間の本性が実現されたときに、人は法と一体化することができるという考え。

問11 『莊子』には次のような説話がみられる。この説話が示す道の性質を述べたものとして最も適当なものを、次の～ のうちから一つ選べ。[38](1998 センター本試験)

南海の帝をシウといい、北海の帝を忽^{こつ}といい、中央の帝を混沌^{こんとん}といった。シウと忽とは時々混沌の土地で出会ったが、混沌はとて手厚く彼らをもてなした。シウと忽とはその混沌の恩に報いようとして相談し、「人間には誰にも(目と耳と口と鼻の)七つの穴があって、それで見たり聞いたり食べたり息をしたりしているが、この混沌だけはそれがない。ためしにその穴をあけてあげよう」ということになった。そこで一日に一つ穴をあけていったが、七日目に混沌は死んでしまった。

道(混沌)は、日常的な場で礼儀を重んじる人間(シウと忽)によってこそ、その本質が明らかになる。

道(混沌)は、自分の世界にとらわれた人間(シウと忽)の経験的判断を超えたものであり、彼らには認識することができない。

道(混沌)とは、すべての人間がのっとるべき儒家規範であり、それに反する人間(シウと忽)には認識不可能なものである。

道(混沌)は、道に反する自己の功績や名声に執着しているような人間(シウや忽)にはとらえることができない。

問12 下線部(f)に関して、儒教思想の歴史をあらわす次の文中の空欄[ア][イ]に入る言葉の組み合わせとして適切なものを、下の～の中から一つ選べ。[39]

春秋時代末期の孔子に始まり、戦国時代には諸子百家の一つであったが、前漢の武帝が[ア]の献策で儒家の教説を基礎に正統教学として固定し、以後、[イ]末までの王朝支配の体制教学となった思想。

ア - 寇謙之 イ - 明

ア - 董仲舒 イ - 明

ア - 寇謙之 イ - 清

ア - 董仲舒 イ - 清

問13 下線部(g)の徳治主義の考え方をあらわす言葉として最も適切なものを、次の～のうちから一つ選べ。[40]

克己復礼 巧言令色 修己治人 温故知新

問14 孔子が考えた「よい生き方」の記述として最も適当なものを、次の～の中から一つ選べ。[41](1999 センター本試験)

常に正義の実現を考え、不正の世にあっても、身の危険をかえりみず敢然として自己を主張する生き方。

上下の序列に基づいた秩序を尊重するとともに、己の欲望を制限し身を修めようとする生き方。

自らの利益よりも、常に他者のことを考え、差別なき愛に基づいた社会奉仕を第一とする生き方。

平等の原則に基づいた秩序を尊重するとともに、己の欲望を制限し他者との関係を重視する生き方。

問15 『論語』の中の言葉でないものを、次の～の中から一つ選べ。[42]

民の若きは則ち恒産なければ、因りて恒心なし。

義を見て為ざるは勇なきなり。

未だ生を知らず、焉んぞ死を知らん。

学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。

問16 下線部(h)に関して、孟子が自己の人間性を完成させることを期待してその思想の基本理念としたものはどれか、次の～の中から一つ選べ。[43]

礼 智 孝 悌 忠 恕 仁 義

問17 10ページの文中の空欄[C]に入る言葉として適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[44]

覇 道 礼 治 王 道 民 本

問18 孟子の言う「惻隱の心」を説明する例として最も適当なものを、次の～の中から一つ選べ。[45](2000 センター追試験)

子供が自分の身に危険を招くようなことをしていたら、救い出してやろうとする。

友人が不正行為をしているのに気付いたら、注意をして反省を促そうと思う。

目上の人歩いているのを見かけると、道を譲って先に通してあげようと思う。

弱者にやさしい立派な人に接すると、自分の日頃の行いが気恥ずかしくなる。

問19 下線部(i)の朱熹の学説[46]と下線部(j)の王陽明の学説[47]についての記述として、最も適切なものを、次の～の中から一つずつ選べ。(2003年センター本試改題)
知ることと行うことを一つのことと見なし、あらゆる場で心の理である良知を十分に発揮させることを重視するよう説いた。

孝は万物を生成し秩序づける宇宙の根源であり、あらゆる人々に等しく内在する心情であるとし、その実践を何よりも重視するよう説いた。

人間を含む天地万物を気による運動体と見なした上で、死物の条理である天理よりも、身近な日常の人倫を重視するよう説いた。

心が弛(ゆる)むのを警戒し常に覚醒させようとする敬の実践と、事物に内在する理を体験的に窮めてゆく実践とをともに重視するよう説いた。

問20 朱熹の著作[48]と王陽明の著作[49]として適当なものを、次の～の中から一つ選べ。

伝習録 聖教要録 本朝通鑑 近思録 翁問答

問21 次の文章が説明している人物として適切なものを、次の～のうちから一つ選べ。[50]

この人物は、良知説を発展させて童心説を唱え、自然のままの童心に帰るべきことを主張した。その童心は私欲すなわち勢利(地位財利)の欲望を含むものであり、聖人といえども人間である以上、私欲をもつものである。人間は自然の性情のまま生きればよいのであって、不自然な道徳に拘束される必要はない。この説は明代の爛熟期の風潮に合致するものであったから、多くの共鳴者を得た。しかし同時に守旧派からの攻撃も激しくなり、76歳のとき官憲に捕らえられて獄中に自殺し、その著作は禁書となった。

李贄(李卓吾) 徐光啓 陸九淵(陸象山) 顧炎武

以 上